

## 助成対象事業成果概要報告書(概要版)

制度名	高齢者・チャレンジ向け通信・放送サービス充実研究開発助成対象事業
助成対象事業名	高齢者・障害者へのサービスレベル向上のための訪問介護支援システムの研究開発
助成対象事業者名	生活協同組合コープかながわ

### [研究開発課題の全般について]

①	助成対象事業の概要	ヘルパー間の申し送り伝達の支援、ならびに介護現場でのコミュニケーションに利用できる話題を自動配信するネットワーク型サービスを開発する。その特徴として、紙に書いた情報がそのまま電子化されるデジタルペン技術を用い、機器利用が苦手な高齢ヘルパーもこれまで通りの記録方法でデータ入力ができ、また、高齢の被介護者とのコミュニケーションに困難を感じる若手ヘルパーの会話にも活かせる話題情報を追加して携帯電話に自動配信する機能を開発する。
②	助成対象事業の目標	訪問介護における情報共有を円滑にするために開発されたネットワークシステムとその利用効果測定の調査結果が最終成果となる。また、その中の具体として、訪問介護に役立つ情報の内容とその情報のITを活用した簡易な共有方法の提案、ならびに利用者の興味・関心へ適応する話題提供を用いた訪問時のコミュニケーション支援システムの実現を目指す。

### [平成22年度実施部分について]

③	平成22年度助成金	9,764 千円
④	研究開発の実施内容	<p>前年度の結果を受け、平成22度は製品化に向けた次の3つの内容を実施した。</p> <p><b>(1)セキュアなインターネット上申し送り情報共有システムの開発</b> 安全性を重視したデータ交換手段を考慮したシステム構築を行い、ヘルパーの自宅PCからデジタルペン記録データを伝送できることを可能とした。</p> <p><b>(2)コミュニケーション支援機能のインテリジェント化</b> 話題ニーズへの適応を可能とするためのインテリジェント機能の向上・拡充を図った。具体的には、ヘルパーの各話題を参照する頻度やその時期的近さに応じて話題データが構成される機能拡張を行った。</p> <p><b>(3)直行直帰型ヘルパーを含めた複数事業所における実証実験</b> 上記(1)(2)に加え、配信時間の選択制の導入、携帯Webでの連絡事項入力・送信機能を追加し、9事業所のヘルパー455名(内186名がデジタルペン使用)で実証実験及び効果測定を行った。</p>

### [平成22年度実施部分における研究開発課題の成果や評価結果について]

⑤	研究開発の成果	<p>(1)稼働ヘルパー455名中394名が自宅から利用者宅への直行直帰型であり、情報伝達方法が電話・FAXで、かつ重要情報に限られていた以前の状態から、毎回、「話題」及び「活動予定」、デジタルペン記録の「申し送り」の情報をヘルパーの携帯電話に自動配信することを可能とした。</p> <p>(2)上記の2009年度研究開発成果及びヘルパーへのアンケート結果を踏まえ、実用性・汎用性を高めるために以下のシステム開発・改良を行った。</p> <p>①デジタルペン記録データをヘルパーの自宅PCからも伝送可能とするための機能を追加した。</p> <p>②1日連続複数回のサービス提供(申し送り事項伝送が自宅PCからでは間に合わない)に対応するために携帯Webでの申し送り事項入力・送信できるようシステムを改良した。</p> <p>③情報配信時間(前年度は一律30分前)をヘルパーが個別に選択できる機能の追加をした。</p> <p>④話題ニーズへの適応を可能とするためのインテリジェント機能の向上・拡充を行った。これにより、提供される話題データは、利用者に関わる複数のヘルパーが、各話題を参照する頻度やその時期的近さに応じて構成されるようになった。</p> <p>(3)上記の改良・追加開発を行った訪問介護支援システムをコープかながわの9事業所455名(配信21,307回)のヘルパー、その内186名(記録・伝送11,904回)がデジタルペンを使用し実証実験を行った。実証実験後の参加者アンケート結果から今研究開発システムの実用性・汎用性が向上していることを確認した。</p> <p>(4)コープかながわ以外の生協及び介護事業所等でも、導入しやすいよう(より安価な)システム開発をすすめることができた。</p>
⑥	研究成果の応用状況、利用状況	<p>(1)実証実験終了後(1/31)もシステムを稼働させ、コープかながわ全事業所で実用している。</p> <p>(2)全国の生協にプレゼンテーション(10/16、12/1)を行った。</p>